

「勉強したことを身につけるには」Study だけでなく Learn も徹底的に行おう

—「単に勉強する」だけでなく「勉強したことを身につける」にはどうしたらよいかを考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

learn は知識・技術を学んで身につける、あるいは覚えるという意味であるのに対して、study は読書・考察などをすること、あるいは学校の学科目として勉強することを意味し、結果が身についたかどうかは問題にしない。日本語の「習う」は両方の語で表現できることも多いが、いずれを用いるかで多少意味合いの相違がある。

We study English at school.

学校で英語を習っている。(英語の授業を受けている)

We learn English at school.

学校で英語を習っている。(授業を受ける結果として英語を覚える)

I studied five English sentences.

英文を5つ勉強した。(結果は不明)

I learned five new words.

新語を5つ覚えた。

1990年刊 研究社刊「ライトハウス英和辞典」

第2版 竹林滋・小島義郎編 800p より引用

英語の勉強が多少すすんでくると、似たような意味の単語(「類義語」といいます)の違いを知ることに興味をもつようになります。pretty と beautiful, handsome, good looking, lovely はどう違うか、see と look と watch は同じ見るでもどう違うか等々興味はつきません。

\* ところで英語の単語量を一気に増やす一番手っ取り早い方法の一つは、このような類義語をどんどん覚えることと、WORD FAMILY つまり基本的な一語から派生する単語 (beautiful を覚えたら、その名詞形である beauty や副詞形の beautifully) もついでに覚えてしまうことであるとは、よく言われます。是非単語量(語彙量)を一気に増やすためこの方法もお試し下さい。

今回は、勉強の秋を迎えるにあたって learn と study の違いを勉強しようと思います。この文章のはじめに紹介した解説は、高校生の間でよく使われている研究社のライトハウス英和辞典での learn と study の相違の説明です。(2～3度声を出してこの説明を読んで頂くだけで感の良い皆さんは、これから何を私が言おうとしているかが推測できると思われるくらい、わかりやすい説明です。)

## 1. 学校や塾では、とりあえず徹底的にstudyしてみよう。

結果が身についたかどうかは、次の話として、とにかく一生懸命に、目の前に与えられた、また自分で取り組もうと決意した科目や分野・事柄について「勉強」をしてみよう。student (学生) とは、study (勉強する) 人のことを言います。student (学生) の職業 (仕事) は study (勉強する) ことにあるのですから。

学校や塾その他の教育機関に行く機会を与えられた学生は、とにかく先生から教えを受け勉強することが仕事なので熱心に勉強をすべきであると考えます。

\* 内容が身につくかどうかは、勉強してからのつまりその次の段階です。「とにかくひたすら勉強」することが大事です。逆に言えば、ひたすら熱心に成果だけを求めようとするのは余りにも「虫がよすぎ」ます。この世の中勉強もせずに学力が身につくほど甘くありません。

\* TV・長電話・ファミコン・長風呂・長ケンカ・長い時間クヨクヨ悩むこと等々をできるだけ抑えて、勉強のために時間を取り戻すことが「勉強」をする上で最も大事です。ダラダラせずテキパキ物事をやることは、部活や、家の手伝いを両立する上で重要です。自分自身を伸ばして (コントロールして) 時間を有効に使い、やりたいことと同時に学生としての勉強も確実にこなす能力を小中高校生時代に身につけることを切望します。

## 2. 一定量・一定時間study (勉強) したら、その重要部分を確実にlearn (身につける・覚える) することに全力を傾けよう。

記憶の痕跡を残すことによって、短期記憶を長期記憶にすることがこの作業の具体的な内容です。人間は、一度 study (勉強) した内容でも、時間がたてばほとんど忘れてしまうものです。頭の良し悪しなどありません。短い時間は記憶していることができますが、長い期間は記憶していることは困難です。そこで、どうしたら、一回勉強したことをずうっと長い間覚えていることができるかということが大事になってきます。

そのための最もよい方法は、意識的に一つのことを一度 study (勉強) してある程度理解したら、忘れる前にもう一度簡単な形でもよいから反復学習することによって新たな刺激を脳に与えることです。英語なら、前の日に勉強した内容は必ず翌日声を出して読んでみる、テキストの本文をもう一度何も見ないで書いてみる等の作業をするとよいでしょう。3 日目・4 日目も同じような作業を繰り返すと、もうほとんど忘れないようになります。更に、学校や塾での豆テスト・確認テストを利用してもう一度復習をし直し、1～2ヶ月に1回学校や塾で行われる中間・期末テスト・月例模擬テストで又々更に何回目かの勉強を繰り返し記憶を完全なものにすることが大事です。

そうして、せめて学校や塾の教科書くらいは1ページから最終ページまで一語一句確実に暗記するくらいが望ましい。人間の記憶力は年とともに衰えますが、まだまだ頭の柔軟な10代、20代でしたらいくらでも覚える努力を積み重ねて下さい。

\* 但し、意識的に覚えようとしなないとなかなか大量の知識は身につけません。〇月〇日までにここまで覚えきってやるぞと「気力」を充実させて立ち向かって下さい。ダラダラやっていたのでは1ページもすすみませんが、やる「気力」にあふれていれば、勉強など、いくらでもすすみます。

\* もっといいことは、今まで余り勉強しなかった人も「気力」さえあふれていれば、いくらでも「身

につけること」はできるということです。勉強に頭の良し悪しはありません。意識的に study（勉強）し、意識的にそれを learn し（身につけ）ようとするからです。

- \* 特に受験勉強など簡単で、今日説明したことがわかっているかどうかだけで合否は決まります。まずは徹底的に study してみる。その後徹底的に learn する努力をしてみる。「気力」を充実させ、この二つの区別を明らかにしながら机に向かって下さい。必ず道は開かれます。

勉強の具体的な仕方のわからない人は遠慮せず開倫塾の先生方に相談して下さい。家で勉強のできない人は、授業前・授業のない日など、開倫塾の空いている教室で遠慮なく勉強して下さい。勉強の上で困っているがあれば、開倫塾を最大限利用して下さい。開倫塾では全力を傾けて塾生の皆さんの学力向上と希望校合格を支援し続けます。遠慮は無用です。